



(仙台・塩竈)

宮城・市川橋遺跡

いちかわばし

1 所在地 宮城県多賀城市市川・浮島

2 調査期間 第四五次調査 二〇〇四年(平16) 五月～九月

3 発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター

4 調査担当者 鈴木孝行・村松 稔・相澤正信・廣瀬真理子

5 遺跡の種類 地方都市跡

6 遺跡の年代 奈良時代・平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の西面から南面一帯にかけて広がる遺跡であり、標高二～三mの自然堤防上に立地している。本遺

跡から西側の山王遺跡にかけては、南北・東西大路を基準とした方格地割が段階的に施工され、九世紀には都市的空間が形成されていたことが発掘調査によって明らかにされている。

今回の調査は、道路拡幅及び公共下水道工事に伴う

もので、多賀城外郭南辺築地から南へ約二〇〇m、城外の幹線道路である南北大路から東へ約五〇mの地点にあたる。調査では、方格地割の北二道路、溝、土坑、水田などの遺構を検出した。本調査地の北東地域では、これまでの調査で建物跡などは発見されておらず、居住域としては使用されていなかったことが判明している。

木簡は、(1)が溝SD三一〇一、(2)が北二道路SX三一〇〇の南側溝SD三〇九九から出土した。SD三一〇二は東西に延びる溝で、約八m分を検出した。上幅二・五～二・九m、下幅二・〇～二・三m、深さ三二cmを測り、埋土は二層に分けられる。上層が人為的な埋立土、下層が自然堆積層で、木簡は下層から出土した。木簡と共伴する遺物はない。

SD三〇九九は、上幅二・七五～三・七五m、下幅一・一〇～一・八二m、深さ五七cmを測る。出土土器から八世紀後期を上限とし、一〇世紀前期頃に降下した火山灰に覆われていることから、一〇世紀前期には機能を失ったことがわかる。共伴遺物には、土師器・須恵器、馬形、挽物、墨書土器「」(柴カ)などがある。なお、本遺構の東延長上には、国司館または城外の官衙と推定される館前遺跡がある。

8 木簡の釈文・内容

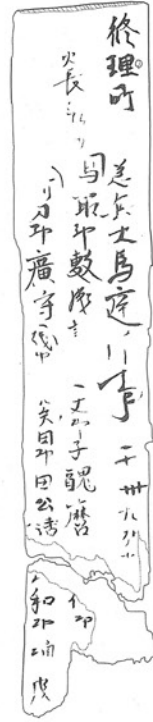
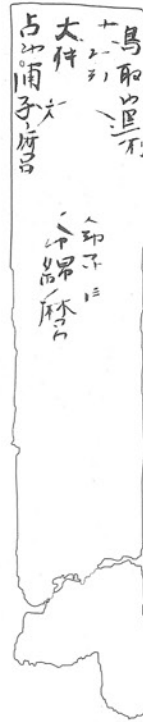
溝SD三一〇二

(1) 久

160



(1)



(2)



(2) (赤外線画像)

北二道路南側溝SD三〇九九

(2)

修理所

火長

送兵士馬庭

事

部

鳥取部

部

部

占部浦子麻呂

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

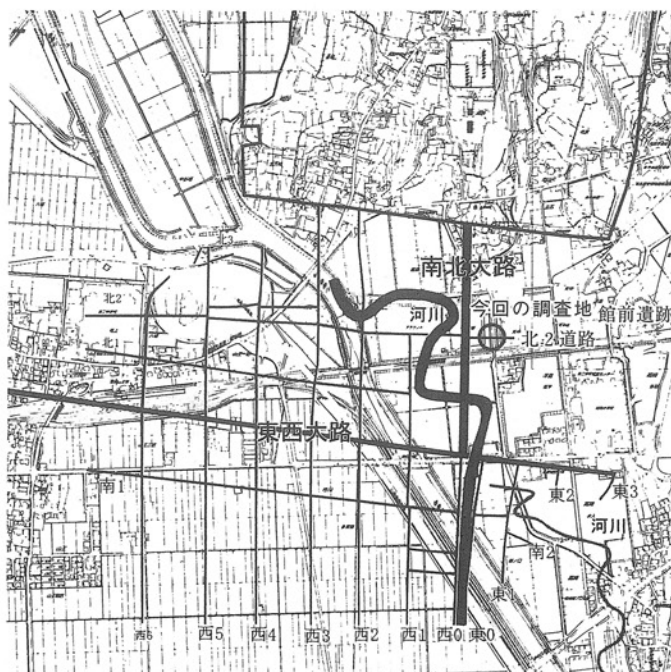
部

部

(357)×69×7 019

(2)は、幅広の材を用いた文書木簡。上端には面取りが施され原形をとどめているが、下端は欠損している。左右両側面は一部欠損しているが、ほぼ原形をとどめている。表面を下にした状態で出土し

たため、裏面は材の傷みが激しい。兵士が「馬庭」の修理・造作にあたるために「修理所」から派遣されたことを示す。一行目は事書であり、初句「修理所」は差出者にあたる。二行目以降、裏面にわ



多賀城南辺の方角地割

たり「火長」をはじめとする兵士名が列記されている。

9 関係文献

多賀城市教育委員会『市川橋遺跡―第四五次調査報告書―』（多賀城市文化財調査報告書七六、二〇〇五年）

（鈴木孝行）

『木簡研究』在庫状況のお知らせ

頒価

一〇四・七号 品切れ

五・六号

三五〇〇円

八〇一二号 三八〇〇円

一三三

四三〇〇円

一四・一五号 四五〇〇円

二四・二五号

五〇〇〇円

一六・一三・二六号 五五〇〇円

（五・六号は残部僅少）

送料

一冊 六〇〇円

二冊 八〇〇円

三冊 一〇〇〇円

四冊 一二〇〇円

五冊 一五〇〇円

一〇二〇冊 二〇〇〇円

◇個人でのお求めは代金前納です。代金と送料を郵便振替

〇一〇〇〇一六一五二七 木簡学会

までお送りください。

◇公的機関の場合は代金後納で結構です。

左記の銀行振込か右記の郵便振替でお願いします。

口座番号 みずほ銀行西大寺出張所

普通預金 一一一〇三二五

口座名 木簡学会 栄原永遠男（さかえはらとわお）

お問い合わせは左記へどうぞ

〒六三〇一八五七七 奈良市二条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所

平城宮跡発掘調査部史料調査室気付

木簡学会

電話 〇七四二一三〇一六八三七

E-mail: mokkan@nabunken.go.jp